

第 46 回文化審議会総会における御意見の概要

- 地域の伝統文化を受け継ぐ取り組みは各地域で行われ、それが、その地域の誇りとなっている。地域文化をしっかりと積み重ねていくことが海外発信につながる。
- 文化は人々が集うところに発生するものであるが、パソコンの普及により、人々が孤立する傾向にある。そこで、人と人をつなぐ地域の見直しが必要である。
- ネットワーク等の発達により流通できる文化は流通させることで人々に見せることができるが、一方で、実際に来て見てもらわなければ理解してもらえない文化もあり、発信の仕方も異なる。
- 論点(案)にある文化発信のための国内基盤の整備は、非常に大切であるが、具体的にどのように行うかを示していく必要がある。
- 大学のみならず、義務教育や高等学校においても、答えを求める効率的な教育のために、教養がないがしろにされている。教育現場の中で、何を重視するべきかを改めて考える必要がある。
- 外国語での表記については、英語だけでなく、世界で多くの人々が使っているスペイン語や中国語などでも行う必要がある。
- 一旦失われてしまったらもとに戻らないのが文化の特質であるので、文化財の活用のための指針を作っていかななくてはならない。
- 論点(案)の文化発信のための国内基盤の整備を戦略的にこなっていくことこそが重要である。
- 教育や行政機関などが文化の大切さを伝えていく必要がある。特に情操教育の大切さを文部科学省から伝えて欲しい。
- 情報技術は進んでおり、文化発信においても、インターネットを活用して欲しい。情報学からも攻めの文化に協力ができる。
- 国際社会において、経済大国以外の国のイメージをどのように作っていくかが大切。
- 文化発信を行うためには、来日外国人が日本文化にふれやすくすることが必要である。
- 文化の大競争時代に、文化発信戦略について検討を行うことは重要である。
- 何をすることも予算の裏付けが必要であり、文化庁予算を増やす必要がある。特に美術館・博物館は海外発信を行える経営状況ではない。
- 教養教育については、大学において、充実がみられない中で、どのように教養を身につけるかを考える必要がある。
- 日本人は言葉をどう使っているか認識する必要がある。例えば、日本人はロゴス中心のコミュニケーションではなく、パトス中心のコミュニケーションをとるために、国際的な場面で黙っているように見えるということを説明していく必要がある。

- 日本の正しい姿を理解してもらうことが大切である。「文化」の概念を広げて検討して欲しい。例えば、法制度はその国の文化を反映しているものである。
- 文化発信を国策として位置づけることが必要である。
- 美術館は外国の作品を持ってくることに重点を置いており、海外発信に関しては、それほど力を入れられないのが現状である。海外に作品を持って行くためには国の支援が必要である。
- アジアをはじめとする諸外国においても国を代表するような美術館を作ろうとする動きがあり、美術館施策についても国際競争が激化している。
- 地域振興が国際交流の推進につながるという認識が必要である。
- 教育に文化を取り入れることが必要であるが、そのためには、教師に文化を教えることが必要である。例えば、日本語教師の養成の際に日本文化を教えるなど、文化発信の施策を他の施策と複合して行っていく必要がある。
- 文化発信のためには、海外で芽生えている日本への関心を育てることが大切であり、それを幅広くキャッチし、きめ細かく支援することが必要である。
- 文化発信において、情報の流通や展覧会に来てもらうことなどは重要であるが、それに加えて、人が行かなくては伝わらないこともある。
- 「文化省」の設立を期待する。
- メディアに伝え、メディアと情報を共有することによって大きな力となる。
- 外国の文化との違いを学ぶことが、日本文化について深く理解することにつながる。
- 文化発信に国際放送を有効に活用すべきである。
- 文化交流は地方のまちおこしと連動しており、更に、観光ともつながっているという発想が必要である。
- 来てもらわないと分からない文化もあるので、外国人が安く来日できるようにすることも大切である。

第 8 期文化審議会委員

(平成 20 年 2 月 5 日現在)

青山 善充	明治大学法科大学院教授(院長)
石澤 良昭	上智大学長
市川 團十郎	歌舞伎俳優, 社団法人日本俳優協会財務理事
岡田 富美子	作詞家, 社団法人日本音楽著作権協会理事
尾高 忠明	指揮者, 札幌交響楽団音楽監督
里中 満智子	マンガ家
田端 泰子	京都橘大学長
田村 孝子	日本放送協会解説委員, グランシップ館長
東倉 洋一	国立情報学研究所副所長
富澤 秀機	テレビ大阪株式会社代表取締役会長
中山 信弘	東京大学大学院教授
西 和夫	神奈川大学教授
西原 鈴子	東京女子大学教授
野村 豊弘	学校法人学習院常務理事, 学習院大学教授
林 史典	聖徳大学教授
林田 英樹	国立新美術館長
松岡 和子	翻訳家, 演劇評論家
宮田 亮平	東京藝術大学長
森 まゆみ	作家, 編集者
山内 昌之	東京大学教授